

1

全現 B  
検定文 A  
語彙代典  
国現 中

令和5年度入学試験問題

解答紙

(4枚のうち1枚目)

(文学部)

一 (45点)

受験番号

1  
受験番号

問1  
複雑な現象の全体をつかむために、自分の分野に関する正確な知識を提供するそれぞれの科学の分野が協力し合うという方法。

問2  
絶えず複雑な現象との対決が人間の日常生活そのものであり、それぞれの科学の分野の糾合による解決が困難だとしても、その日常生活自体は避けられないから。

問3  
複雑性を有する日常生活上の問題の側面について正しい答えは出せたとしても、当該の問題自体に適切に対処する態度の根拠を出すことができないという限界。

問4  
彼女やヴェトナム戦争について全部を知りえないのに、彼女を愛したり戦争を憎んだりするように、人間は自分の感情的反応によって態度を決めるものである。

問5  
社会的な問題に対して、自分の感情的反応だけを頼りにして行動すれば周囲の人に迷惑をかけ、一方で、一面的な専門知識だけを獲得しても有益な行動をしないという事態。

問6  
日常生活における全体的な現象に対する自分の個別的な諸感情を、それぞれ現象に関する専門的な知識を媒介にしながら、一つの普遍的な価値になるまで客観化し、統一された全体に向かって組織すること。

採点

2

国語現代文 A  
国語現代文 B

(文学部)

令和5年度入学試験問題  
解答紙  
(4枚のうち2枚目)

受験番号

2

受験番号

二 (30点)

採点

問6		問5	問4	問3	問2	問1		
イ	ア	<p>女二の宮が自分を恨んで一晩中泣き明かすほど悲しみ苦しんでいるのに、この数ヶ月、そんなことにも気がつかないふりをして、自分は物思いもなく安眠していたこと。</p>	<p>以前のよう狭衣が忍んできたことに気がついて動転し、御帳台の後ろにすべり出たが、近くに狭衣に見つけられるのではないかと恐ろしくて、さらに遠くに逃げたいが身動きもできない状況。</p>	<p>「うき」は「浮き」と「憂き」の掛詞</p>	<p>私がこれほどまで女二の宮のことを思っているだろうなどと女二の宮はご存じないだろうよ。</p>	③	②	①
枕	夜な夜な					<p>着なれて柔らかくなった御単衣をお召しになって</p>	<p>手引きする人</p>	<p>当然のことだよ</p>

採点

3

国語現代文 A  
国語現代文 B

(文学部)

令和5年度入学試験問題  
解答紙  
(4枚のうち3枚目)

受験番号

3

受験番号

三 (30点)

問5		問4	問3	問2	問1		
女	男	土山の宿で友と二人、酒を飲んで時を過ごしてしまい、先に行った人々を追って鈴鹿山を越えた時に、盗賊が現れて脅してきたので、正気を失い、有り金のすべてを盗賊に差し出して逃げたということ。	(ア) は完了の助動詞「ぬ」の終止形、 (イ) は打消の助動詞「ず」の連体形	あなた方は、いつまでこのように薄情なのか。今回のことを最後として、親子の縁だけでも切ってくださいならば、望みなさる通りにできよう	③	②	①
強盗に有り金を取られたという男の話は、自らの嘘を見抜いた男の作り話だと察し、憎らしく思っその場を立ち去り、男から送られた句に対し、あなたと二度と会うことはないと思っっていたという句を送り返した。					親のために苦勞をしているという女の身の上話は嘘だと見抜き、自身も作り話をして女の要求をかわし、あなたは客と見れば金を巻き上げようとする欲深な人間だという句を書いて送った。	不本意にも	荒れはてても寂しい

採点

四 (45点)

問7	問6					問5	問4	問3		問2		問1
	ず	く	か	べ	人			これらの人々はみな若い時に勉学をせず、年を取ってから目がさめて勉学に励んだ者達である。	盛年 <small>(う)</small> に失ふも、猶 <small>(お)</small> ほ当に晩く学ぶべし、自ら棄つべからず。 べく <small>(して)</small>	②	①	㉞
(エ)	つ	に	ら	き	は	人は早いうちから学問を教えて、時機を逸することがないようにしなければならぬ。	須 <small>ニ</small> 早教、勿 <small>レ</small> 失 <small>レ</small> 機也。			(ア)	もとより	うま <small>(ハ)</small> ざる・あか <small>(チ)</small> ざる
(キ)	と	な	学	だ	集			いよいよ	(イ)			
(ク)	学	っ	問	が	中	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	び	て	を	、	力			いよいよ	(イ)			
	続	も	始	時	の	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	け	学	め	機	あ			いよいよ	(イ)			
	て	ぶ	て	を	る	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	い	こ	遅	逸	若			いよいよ	(イ)			
	く	と	く	し	い	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	べ	を	は	て	う			いよいよ	(イ)			
	き	を	は	年	ち	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	で	諦	な	を	か			いよいよ	(イ)			
	あ	め	く	と	ら	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)
	る	ず	、	っ	学			いよいよ	(イ)			
	。	、	い	て	ぶ	いよいよ	(イ)			いよいよ	②	(エ)

採点